

芸術と科学の融合で「感動」をつくる



タリバンによって2001年に爆破された、アフガニスタンのバーミヤン東大仏の天井壁画「天翔る太陽神」が復元された。

文部科学省とJSTが推進する「センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」の大きな成果である。実現したのはCOI拠点の1つ、宮廻(みやさこ) 正明・東京藝術大学教授が研究リーダーを務める「『感動』を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション拠点」だ。

復元には消失、破壊された貴重な文化財を、オリジナルと同素材、同質感で独自に復元する「クローン文化財」の技術を活用した。バーミヤン壁画は、その縮小版が今年5月のG7伊勢志摩サミット(主要国首脳会議)のサイドイベントで展示され、首脳たち

の注目を集めた。文化財をテロリストたちから守るメッセージと共に、日本の文化財保護の高度な修復技術をアピールするのに一役買った。

‘Focus’ではこのクローン文化財を紹介すると共に、「共感覚メディア研究」「ロボット・パフォーミングアーツ研究」「障がいと表現研究」など、芸術と科学の融合によって新たな感動を創造する東京藝術大学のユニークなCOI拠点の活動を集める。



サミット会場での展示の様子



復元された「天翔る太陽神」。有翼の女神と半人半鳥の霊鳥、風神が太陽神を囲む。天空はラピスラズリによってアフガンブルーに彩られている。